

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290200013		
法人名	医療法人 慶成会		
事業所名	グループホームかわばた		
所在地	〒036-8017 青森県弘前市西川岸町6-1		
自己評価作成日	令和4年8月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

療養型から転換したグループホームなので1ユニット6名で2ユニット12名で目配りも届き家庭的な雰囲気の中で楽しく生活しています。Aユニット・Bユニットの利用者様もお互いによく知っているので、一緒にレクを楽しんでいます。ホームも町の中心部にあるので季節毎のイベントに参加したり、見学したりと地域との関わりも出ています。イベントにより季節の移り変わりも感じられ、生活にメリハリがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームは弘前市中心部に位置され、今年2年振りに開催された「ねぷた祭り」を、窓から間近に鑑賞でき、利用者がとても喜んでいる。定員が少ないことから、スタッフは利用者の状況をよく理解し把握できている。利用者の楽しみである「食事」は、スタッフがメニューを作成し、食材を購入することで新鮮な野菜や魚を用意し調理しているため好評で残食が殆どない。行事のある時は、仕出し屋に「弁当」を頼んで会食を楽しんでいる。スタッフは理念をよく理解しており、「笑顔と思いやりの心」で利用者のケアを実践し、利用者からの感謝の言葉があった時に「やりがい」を感じている。管理者は話やすく、スタッフが安心して働ける職場であり、勤続年数の長いスタッフが多いこともグループホームの長所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、朝の申し送り時に理念を唱和してから仕事に臨み、理念を実践に繋げている。	理念は職員が全員で考えた内容である。理念はスタッフルームに掲示し、職員は自分達が作成した理念ということもあり、内容を周知し利用者が安心して生活が送れるようなケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で幼稚園との交流が出来ていません。近隣のお店での飲食、買い物等は出来ていませんが、利用者様の衣料品等は地域の衣料品店に出向いてもらい購入しています。	近所は高齢者世帯が多く、町内は数軒しかない状況である。コロナ禍ということもあり、以前は近所の商店街で買い物をしていたが、外出できる利用者も少なくなってきたため、訪問販売を利用することで地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事等のお知らせなどしていますが地域の人々も高齢化で参加には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し行政、民生委員、ご家族の方に活動報告、課題に対して意見・アドバイスを頂き職員と共有して活用するように努めています。	新型コロナ感染症に関する文書が県や市から多く届くことで、最近では感染予防のために関係機関に新型コロナワクチン接種報告と共に、会議中止のお知らせを送っている。地域にグループホームの状況を発信できていない。	会議形式でない方法でも運営推進会議を実施できるように、管轄の弘前市役所に連絡・相談し、積極的な取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所内の疑問・問題等で市役所に出向いたり電話等で質問・相談等させてもらっています。市役所側からも良く対応して頂いている	介護保険関連の申請や市に提出する書類の記入等を市役所窓口に出向いたり、電話で確認しており、協力関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で研修・委員会を設置し3ヶ月に1回虐待委員会を開催しています。独自のマニュアルを作成し取り組んでいます。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、日頃から職員間でよく話し、研修も定期的実施していることから、職員は十分に理解し拘束はない。外部研修(ズーム)後は、毎月の会議の際に伝達研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修等への参加。虐待については日々の介護の中で常に話し合いがもたれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の講習受講の職員がいます。日常生活自立支援事業については個々に応じた対応をするように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時、入所時には十分な説明をして納得していただいています。不安や疑問点等は面会時電話等でも随時対応させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望に耳を傾けケアマネジャー、管理者職員等で意見・要望について話し合い、共有して運営に反映させています。	自分で発信できる方には直接確認し、受診前後には必ず連絡している。その都度意向の確認を行っている。利用者の家族は遠方に在住する方が多く連絡は欠かさない。要望は共有し、周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の会議の時や日常の会話の中で意見・提案を聞き反映させています。	毎月の会議以外の場でも管理者と職員間には良好で職員は何でも相談しやすい関係にある。職員からの意見が出て、方向性が決まれば共有し、個別ケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員等の要望を聞き、話し合って代表者に伝え、働きやすい環境を整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は積極的に機会を確保し受講をするように努めています。資格取得への取り組みを推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で集まる機会を確保できず電話等で対応しています。定期的に交流するよう努めたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から本人の情報を得ながら本人の話を傾聴し不安を取り除き安心を得るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する時は家族からの要望に添えるように出来るだけ話を聞き安心できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族双方の話をよく聞き、双方に満足していただくよう、情報提供も参考に支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とのことをよく理解し、一緒に雑談したりレクリエーションをしたり、ホーム内の手伝いをしてもらったりして暮らしを共にする同志の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1回の施設からの新聞発行にて本人様の近況を伝えています。現在はコロナで面会が困難な為、写真を入れて元気な姿をお見せしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切にしていた人・場所等については関係が途切れないよう支援してきました。現在、コロナで面会出来ないで電話での対応や窓から顔だしで応じてもらっています。	感染予防のため家族の面会は玄関のガラス越しに行われている。希望があれば馴染みの理美容院で散髪を支援している。またかかりつけ医を継続することで、利用者が安心して過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの話を傾聴し利用者が孤立しないよう、お互いに支え合って楽しく過ごせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談には必要に応じて支援できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い・希望・意向はよく聞き、意向に添えるよう努めています。	会話の可能な利用者は思いを言葉で確認し、伝えることが難しい利用者は表情を観察しながら意向を把握している。普段の生活の中で随時意向を確認してケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にて本人・家族又その関係者の方々からの情報からサービス利用の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人に担当者を決め現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・担当の職員の話や他職員の意見を聴きながら現状に合った計画を作成しています。	センター方式でアセスメントし、計画書を作成している。モニタリングも定期的実施され記録している。遠方の家族には電話で意向の確認を行っている。	計画書はやや個別的な部分で内容が不足している印象がある。アセスメントを掘り下げて、「その人らしい」サービス内容が記載された計画書作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同志情報の共有しながら気付を見直し等して介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同志、本人の身体・状況変化を気付くようにし、家族・主治医・居宅への連絡等も密にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため外出など控えており必要な物品は、職員が代わりに購入しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にしてかかりつけ医と情報提供を行い適切な医療を受けれるように受診介助を行っています。	歯科は往診を利用し、他の科はかかりつけ医の受診を継続している。家族対応の方もいるが、グループホームで対応する方が多くなっている。新たに専門医を受診する際は、家族に相談して病院を決めている。受診の前後は連絡・報告を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場ではケアマネージャーと相談したり、利用者が安心して受診したりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から連絡を取り、何かあったらすぐ相談出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行っていないと、入居時に書面し説明しています。	入居時に看取りは行っていないことを説明し、承諾いただいている。入院を機に重度化し、グループホームに戻れなくなった場合には、病院と連携し「住み替え」の協力を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一同実践方向に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度避難訓練、消防署届け出の訓練を実施しています。地域の協力者・警備会社に自動的に連絡など行くシステムになっています。	災害時のマニュアルはあり、毎月避難訓練を実施し、水害想定で屋上に避難したこともある。地域の民生委員も参加され協力がある。契約している民間の警備会社が消防署に避難訓練計画書を提出し、定期的に設備の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格など考え、言葉かけなどし対応努めています。	利用者一人ひとりに対して、他の方に聞こえないように配慮した声かけを行っている。トイレのカーテンは開けたままにしないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴え、希望など傾聴し決定など出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を優先にし、希望などを聞き、ケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けし、その人に合うようにアドバイスしたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日当番を決めて食器拭きの手伝いをお願いしたりしています。	野菜の下ごしらえ、盛り付けを利用者と一緒に行い、食器拭きは皆がやりたがるので当番にしている。職員がメニューを作成し、食材の購入も行い、好評で残食はない。食べたい物があれば購入し「食」を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎日チェック記入しています。水分を多く摂るよう、時間を決め水分補給をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けをし口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立困難な方は排泄チェック表を作成、記入し、排泄誘導を行っています。その方に合った介護支援を行い、自尊心に考慮した対応を心掛けています。	定時にトイレ誘導し、自尊心に配慮し一人ひとりに合った方法で排泄を支援している。排便チェックを記録し、便秘予防の対策も適宜行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給・軽体操の取り組みをしています。1日1.5ℓ～2ℓの水分摂取を心掛けています。毎日の排便の有無の確認に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴をしています。入浴順番等の拘りがある方には希望に合わせられるよう支援しています。入浴出来ない時は、シャワー浴、足浴、清拭で対応しています。	1対1で入浴ケアを行っている。自分でできる方は声かけし、できないことを支援するようにしている。入浴拒否する方は、様子を観察しながら誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで過ごしたり、居室で休んだり自分のペースで過ごして頂いています。季節に合った寝具の調整、定期的なシーツ交換をして居室の清潔・温度・換気に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の名前・日付・薬の目的・飲み忘れや誤りがないよう、担当スタッフ・薬係の人がチェックを重ね注意・確認をして服薬介助に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、居室の拭き掃除など、毎日役割を持つ事で充実感を感じて頂けるよう支援しています。皆様で楽しめるようレクリエーションを考え、気分転換を図って頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出自粛が続いていますが屋内からねぶた運行をみて楽しんでいます。ご家族が受診に連れて行って下さる時は気分転換になるよう時折、外食などをお願いしています。	受診で家族と外出する時は、外食等も楽しめるように依頼している。桜祭りの際は公園周囲をドライブし、グループホームに戻って会食を楽しんだ。コロナ禍なので外出は控えているが、気分転換のため、毎日ホールでレクリエーション活動も行っている。今後は、ワクチン接種も済ませた為、状況を見てドライブを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物して出掛けるのが困難な為利用者様に要望を聞いて、職員が購入しています。又、近くの洋品店に利用者様の要望に添った品物を持って来て頂き好みの物を買う楽しみを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は施設の物を自由に使用して頂きます。手紙は切手購入、投函の支援をしています。本人が希望する時は出来る限り援助支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の変化に合わせて月ごとにホーム内を装飾したり行事等の写真を掲示しています。夏はエアコン、冬は暖房の温度調節に配慮しています。新型コロナウイルスの影響に伴い、施設内に空気清浄器を設置し室内の環境も気を付けています。	皆で過ごす空間(ホール)は家庭的で、壁に絵画や飾りがあり、空調にも気を配った居心地の良い環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室ではテレビを見たり、歌や軽体操や塗り絵などをして楽しく過ごせるよう支援しています。気の合った同士で過ごせるよう長椅子を設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの小物、家族写真を飾ったり仏壇を置いたり本人が居心地良く過ごせるように支援しています。	自宅で使用していた馴染みのものを居室に持ち込み、利用者が安心して生活できるような環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の場が2階なので、安全面には特に気をつけ本人が楽しく安心して過ごせる様に努めています。		